

京都学習協の第27回集中セミナー 募集要項

申し込みは、このテーマを学びたいと思う方は誰でも参加できます。
 申し込みの手続きは、簡単です。「申込書」に必要事項を記入し、受講料をそえて申し込んでください。FAXでも申し込みができます（受講料は当日お支払いください）。

講義時間は、午後1時～5時
 （休憩も含まれます）

受講料は、2,500円です。
 （税込み）

会場は、
 京都市職員会館 かもがわ 2階 大会議室
 （中京区土手町通夷川上る末丸町）
 会場へは、河原町竹屋町を東へ進むのが最短です。



申込先は.....
 京都労働者学習協議会
 〒602-8147
 京都市上京区堀川丸太町西一筋目上ル『京都学習会館』内 電話(075)841-8141 FAX(075)821-3665

Intensive Seminar Vol.27



『資本論』から読み取る 労働者階級の歴史的使命

講師 吉井 清文
 ・関西勤労協会長

会場	受講料	日時	京都学習協第27回集中セミナー
京都市職員会館 「かもがわ」	2500円 13時～17時	2012年12月09日(日曜日)	

京都学習協の第27回集中セミナー 申込み日時				年	月	日
フリガナ				性別		年齢
氏名:				男・女		才
現住所:						
職場・学園:						
労働組合名:				(全国単産名:		
電話: 職場()			自宅()			

不和哲三著

「『資本論』はどのように形成されたか」 246～248頁

未来社会での「生産的労働」と「知育および体育」との結合（『資本論』 822ページ）、資本の変転する搾取欲求が「全体的に発達しか個人」の形成を日程にのぼらせていること（同前838ページ）、家族と両性関係のより高度な形態のための経済的基礎の形成（同前842～843ページ）、「工場立法」の意義（同前864ページ）など、この節でとりあげている未来社会論は、たいへん多面的で示唆的な内容をもっています。これは、この完成稿で、社会変革の問題をたちいって論じようとするマルクスの強い意欲を予想させるものです。

そのなかでとくに紹介しておきたいのは、「近代的工業」の革命的性格に注目した次の文章です。この文章でマルクスは、近代的工業を、その技術的基盤のたえざる変革を本質的特徴とする生産様式として性格づけ、「技術的基盤はすべて本質的に保守的であった」これまでのすべての生産様式と鋭く対置しています。

「近代的工業は、ある生産過程の現存の形態を決して最終的なものとはみなさないし、またそのように取り扱わない。それゆえ、近代的工業の技術的基盤は、革命的であるが、これまでの生産様式の技術的基盤はすべて本質的に保守的であった。近代的工業は、機械、化学的工程、その他の方法によって、物質的生産の技術的基礎とともに、労働者の諸機能および労働過程の社会的諸結合を絶えず変革する。近代的工業は、それとともに社会の内部における分業も絶えず変革し、大量の資本および大量の労働者のある生産部門から他の生産部門へ間断なく投げ入れる。それゆえ大工業の本性は、労働の転換、機能の流動、労働者の全面的可動性を条件づける」（同前837ページ）。

マルクスは、近代的工業がもつこの「革命」性が、労働者に新しい苦難をもたらす「否定的側面」をもつことを厳しく指摘しますが、同じその過程のなかに、「全体的に発達した個人」の形成への接近や、労働者とその子どもたちのための技術学校など、未来社会の要素となりうる萌芽的な諸要因があることも、同時に指摘しています。進行している事態を、古い生産形態の解体と新しい生産形態の形成との両面から分析するマルクスらしい考察です。

「……大工業は、労働の転換、それゆえ労働者の可能な限りの多面性を一般的な社会的生産規律として承認し、その正常な実現に諸関係を適合させることを、その破局そのものを通じて死活の問題とする。大工業は、資本の変転する搾取欲求のために、窮乏しか、自由に使える労働者人口を予備として取っておくという異常状況を、変転す

る労働需要に対応できる絶対的な使用可能性をもった人間の育成をもっておきかえること、すなわち、一つの社会的部分機能の担い手にすぎない部分個人を、さまざまな社会的機能を互いににないあえるような活動様式をもつ、全体的に発達した個人をもっておきかえることを、その死活の問題とする。大工業の基礎の上に自然発生的に発展したこの変革過程の一つの契機は、総合工業学校および農業学校であり、もう一つの契機は、労働者の予供たちが工業技術やさまざまな生産用具の実際の取り扱いについて初歩的な授業を受ける“職業学校”である。工場立法が資本からやっともぎ取った最初の譲歩は、初等教育を工場労働と結びつけることだけだったが、労働者階級による不可避的な政治権力の獲得の際には、理論的および実践的な技術教育が労働者学校のなかにしかるべき地位を獲得するだろうことは疑う余地がない。……一つの歴史的な生産形態の諸矛盾の発展は、その解体と{次の生産形態の 不破}新たな形成の唯一の歴史的な道である」（同前838～839ページ）。

この文章が、マルクスが『資本論』のなかで「労働者階級の政治権力の獲得」について語った唯一の箇所であることも、記憶にとどめておきましょう。



マルクス『労働組合 その過去、現在、未来』から

- (イ) その過去 略
- (ロ) その現在 略
- (ハ) その未来。

いまや労働組合は、その当初の目的 「その当初の目的」を「資本の奸策に対抗して行動するという当面の任務」に訂正 以外に、労働者階級の完全な解放という広大な目的のために、労働者階級の組織化の中心として意識的に行動することを学ばなければならない。労働組合は、この方向をめざすあらゆる社会運動と政治運動を支援しなければならない。みずから全労働者階級の戦士、代表者をもって自認し、そうしたものとして行動している労働組合は、非組合員を組合に参加させることを怠ることはできない。労働組合は、異常に不利な環境のために無力化されている 「無力化されている」を「組織的な抵抗をいっさい阻止されている」に訂正 農業労働者のような、賃金の最も低い業種の労働者の利益を細心にはからなければならない。労働組合の努力は狭い、利己的なものでは決してなく、ふみにじられた幾百万の大衆の解放を目標とするものだということを、一般の世人に納得させなければならない。

科学的社会主義の古典選書「インタナショナル」（新日本出版社 56～57頁）